

Title	静脩 Vol. 15 No. 4 (1978.11) [全文]
Author(s)	
Citation	静脩 (1978), 15(4)
Issue Date	1978-11
URL	http://hdl.handle.net/2433/65964
Right	
Type	Others
Textversion	publisher



The Kyoto University Library Bulletin

静脩

1978年11月

Vol. 15, No. 4

物としての図書から情報としての図書へ

法学部教授 北川 善太郎

法学研究の伝統的な手法は、外国の法制について、入手しうる文献を網羅的にあたって歴史的、比較法的、あるいは解釈論的研究を展開するものであった。これは今日でもとりわけ若い法学研究者が意欲的な力作をものにするさいにしばしばみられ、わが法学研究の発展に多くの刺激を与えている。こうした研究にとって、外国で出版された最新のモノグラフィーや論文は、問題の所在をさぐり、ときにはその解答の手掛りをもつかむ上できわめて重要な情報源である。これは一例であるが、ともかく、法学図書を利用する側から見て、研究上便利なモノグラフィーや研究論文等の二次文献の重視が図書館のあり方に影響を及ぼしていることは否定できない。

ところが、こうしたいわば「物」としての図書を収集しておく図書館のあり方は、法学の分野においてつとに行き詰りを見せている。身近なところからその理由をあげると、予算不足、スペース不足、図書の管理体制上の問題等が、図書館のそうしたストック機能をすら不満足なものにしてしまっている。したがって、今後ともこうした機能の充実をはかる努力がなされるべきであるが、行き詰まりの原因として、研究者の側から見てこれ以外の、より重要なものがあるように思われる。一口でいえば、この原因は、法学研究のひろがりによるものといえる。法学研究は、急速に、日本の現実から発生する困難な問題（公害、医療事

故、交通事故、国際取引、消費者保護等）の解決のために動員され、その過程において、内外の一次資料への強い関心、政策論への傾斜、法律情報の比重増大といった図書館のあり方にかかわる動きが表面化してきている。研究にあたり求められる図書が多様化してきたのである。こうした動向から定着して来た一つの流れとして、私は、ストックされた図書を活用するためのツールとなるものへの強い需要をあげたい。これは、いわば「物」としての図書から「情報」としての図書への脱皮につながる流れとってよいであろう。この意味の「情報」としての図書は、いくら「物」としての図書に費用をかけスペースを確保し、図書管理を十分にしても充実されることはないのである。そこには、従来とは質的に異なる図書館機能が期待されているのである。

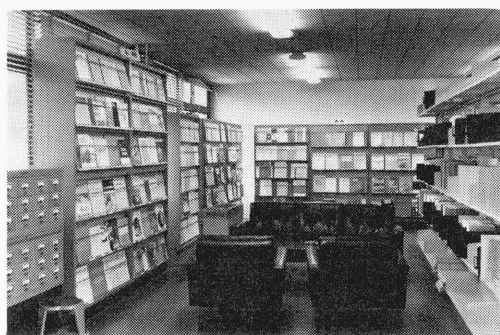
さて、こうした「情報」としての図書をシステム化した図書館機能の充実が法学研究上ますます強く期待されているのであるが、この点でストック機能を中心とした現行の図書館体制と、手仕事の職人気質の研究者の研究体制との間にむしろ大きなギャップが拡大しつつあるように思われる。研究者から見ると、研究対象のひろがりや関連する情報の多様化と情報量の増大のために、自己の研究分野についてさえ、関連する文献をおさえることが困難になっているが、この傾向は、「物」としての図書が充実すれば一層強められるという

皮肉な結果になりかねないのである。そこで、こうしたギャップから生成して来た中間領域を埋める必要があるわけである。これは、二面からなされるべきであろう。その一面は、いうまでもなく、ストック機能に加えて情報機能をもった図書館への脱皮、「物」としての図書を利用し、加工し、これと「情報」としての図書に転換するシステムの作成である。この転換のためのツールとして、たとえば、事項別・著者別等に整理された雑誌論文や判例批判のコンテンツ・サービス、未収図書に関するデータ（どこに収集されているか等）、研究テーマや重要テーマ毎の文献情報の作成等があげられる。そして、こうした文字情報を

さらにマイクロ化し、コンピュータ・システム化して効果的な活用の途をひらくことも考えるべきである。いま一つの面は、研究者が、いわゆる法情報学、コンピュータ法の分野での研究をおし進めることである。コンピュータ利用が一般化するなかで、法学研究面ではなお多くの立ち遅れが見られる。今後は、法学研究においても、「物」としての図書の著作のほかに、「情報」としての図書に関する著作が研究者にとって魅力ある研究成果になるであろう。この点の見通しは必ずしも樂觀を許さないものであるが、それを避けて通ることはもはや出来ないであろう。

— 図書室めぐり —

宇治地区五研究所共通図書室



はじめに

宇治地区に、自然科学系の研究所（化研，原研，木研，食研，防研）を集めて総合館が建設され、共通図書室が昭和46年に発足し現在に至っている。

蔵書構成

当図書室では五研究所の逐次刊行物を一ヶ所に集め、部局の壁を越えて各研究所員共有の文献資料として活用されるよう配慮している。その結果化学系の文献は非常に充実し、さらに周辺分野の文献も加わり、化学者にとっての研究活動に極めて効果的な蔵書構成となっている。共通図書室発足当時各研究所間で収書における協力、重複購入外国雑誌の調整を行ったが、利用頻度の比較的高いものは今なお重複購入している。しかし、この

ことは利用者にとって支障なく研究活動を行う上での大きなメリットの一つとなっている。このように宇治地区では研究者が利用する上で最も一般的な情報資料である逐次刊行物に重点をおいた資料収集を行っている。

相互協力活動

現代の研究活動のなかで最も重要なものの一つに文献の入手があげられる。しかし科学技術の急激な発展にともなって発生する膨大な文献を各所にとりそろえることは極めて困難である。そこで文献を合理的、能率的に管理運営し円滑な利用をはかり研究効果を一層高めるために相互協力が必要となる。宇治地区でも本部地区との間では相互協力活動を密にしている。なかでも農学部、薬学部各図書室とは相互貸借に特別な配慮をし、研究者のニーズにに応じている。また、他大学および研究機関との間でも相互協力の制度が確立している。

参考文献紹介

化学の領域は多分野にわたり、情報量も極めて多い。したがって、一次資料へのアプローチの手段として二次資料を網羅的にとりそろえる必要がある。当図書室では主要なものとして下記のものをあげることができる。

(1) Chemical Abstracts.

アメリカ化学会で発行している世界的な抄録誌の一つで、純粋数学、純医学、機械工学等を除くほとんどの化学分野の報文を掲載している。

(2) Beilsteins Handbuch der Organischen Chemie. (H, E1, E2, E3, complete)

分子中に炭素を含んでいる化合物についての百科全書で、収録期間中に文献に報告されたすべての既知有機化合物がリストアップされている。重要なことはどの情報についてもオリジナルの文献が示してあることである。

(3) Dictionary of Organic Compounds.

有機化合物を概説したリストを含み、名称、構造式、物理的性質と誘導体などを文献とともに示している。

(4) Landolt-Börnstein Zahlenwerte und Functionen aus Naturwissenschaften und Technik.

物理的データの概要を多数の巻にまとめたもので、現在未完結であるが膨大なデータ集である。

る。すべてのデータには引用文献があげてあり、有機化学者にとって重要なものの一つである。

(5) Methoden der Organischen Chemie.

ドイツにおける主要な全集で実験法のために書かれたものである。内容は一般実験法、分析法、物理的方法、化学的方法等に分けて解説している。その他 API Research Project44/TRC Data Project (化合物の物性およびスペクトルデータ集), Chemical Titles. INIS Atomindex, Nuclear Science Abstracts (1976年廃刊) 等がある。また、防災研に於ては航空写真と自然災害関係データを防災科学資料センターに保管し全国の研究者の利用に供している。

おわりに

現在宇治地区では研究活動の能率向上および省力化、更に増大する利用者の情報要求に対処するために TOOL—I R (東京大学大型計算機センター・データ・ベース) 等による情報検索についても、宇治地区五研究所図書連絡会議で検討中である。

プリンストン大学出版部寄託図書目録 第19・20回(1974) <前号からの続き>

II. SOCIAL SCIENCES

Migdal, Joel S.

Peasants, politics, and revolution; pressures toward political and social change in the third world. 1974. (2-0.M35)

Race and slavery in the Western Hemisphere: Quantitative studies. Ed. by Stanley L. Engerman and Eugene D. Genovese. 1975. (2-0.R37)

Schnore, Leo Francis. *ed.*

The new urban history; quantitative explorations by American historians. With a foreward by Eric E. Lampard. 1975. (2-0.S70)

Reichard, Gladys A.

Navaho religion; a study of symbolism. 2.ed. 1970. (2-1.R61)

Zaretsky, Irving I.; & Leone, Mark P.

Religious movements in contemporary America. 1974. (2-1.Z3)

Campbell, Joseph.

The mythic image. Assisted by M.J. Abadie. 1974. (2-3.C15)

The University in society. Contributors: Lawrence Stone [& others]. Ed. by Lawrence Stone. v.1: Oxford and Cambridge from the 14th to the early 19th century. 1974. (2-4.U29)

U29)

The Formation of national states in Western Europe. Ed. by Charles Tilly. Contributors: Gabriel Ardant [& others]. 1975. (2.6.F44)

Gilbert, Felix.

Machiavelli and Guicciardini; politics history in sixteenth-century Florence. 1965. (2-6.G50a)

Lewin, Moshé.

Political undercurrents in Soviet economic debates; from Bukharin to the modern reformers. 1974. (2-7.L171)

Okôti, Kazuo; & others. *ed.*

Workers and employers in Japan; the Japanese employment relations system. 1974. (2-7.015)

Sowell, Thomas.

Classical economics reconsidered. 1974. (2-7.S94)

Tobin, James.

The new economics one decade older. 1974.

(2-7.T42)

III. PHILOLOGY

Jacobson, Howard.

Ovid's *Heroides*. 1974. (3-3.J2)

IV. LITERATURE

Jameson, Fredric.

Marxism and form; twentieth-century dialectical theories of literature. 1971. (4-1.J4)

Dante Alighieri.

The *Divine Comedy*: *Paradiso*. Tr., with a commentary, by Charles S. Singleton. 2v. 1975. (4-5.D89)

Rimer, J. Thomas.

Toward a modern Japanese theatre, Kishida Kunio. 1974. (4-6.R5)

Shih, Chung-wen.

The golden age of Chinese drama: Yüan Tsa-chü. 1976. (4-7.S4)

V. HISTORY

Maier, Charles S.

Recasting bourgeois Europe; stabilization in France, German, and Italy in the decade after World War I. 1975. (5-1.M2)

Conference on Taisyô Japan, *Quail Roost*, N.C. 1970.

Japan in crisis; essays on Taishô democracy. Ed. by Bernard S. Silberman and H.D. Harootnunian. 1974. (5-6.C19)

Dilemmas of growth in prewar Japan. Ed. by James William Morley. Contributors: George M. Beckmann [& others]. 1971. (5-6.D9a)

Havens, Thomas R.H.

Farm and nation in modern Japan; agrarian nationalism, 1870-1940. 1974. (5-6.H21)

Wilber, Donald N.

Iran; past and present. 7. ed. 1975. (5-8.W4)

VI. EUROPEAN HISTORY

Amann, Peter H.

Revolution and mass democracy; the Paris club movement in 1848. 1975. (6-5.A1)

Egbert, Virginia Wylie.

On the bridges of mediaeval Paris; a record of early fourteenth-century life. 1974. (6-5.E1)

Locke, Robert R.

French legitimists and the politics of moral order in the early Third Republic. 1974. (6-5.L11)

Morse, Edward L.

Foreign policy and interdependence in Gaullist France. 1973. (6-5.M5)

Wilson, Woodrow.

The papers. Ed.: Arthur S. Link. v.18: 1908-1909. 1974. (6-8.W12)

VII. SCIENCES

Discontinuous groups and Riemann surfaces; proceedings of the 1973 conference at the University of Maryland. Ed. by Leon Greenberg. 1974. (7-1.D19)

Gririths, Phillip.

Topics in algebraic and analytic geometry; notes from a course of Phillip Griffiths. Written and revised by John Adams. 1974. (7-1.G11)

Hirsch, Morris W.; & Mazur, Barry.

Smoothings of piecewise linear manifolds. 1974. (7-1.H13)

Simon, Barry.

The $P(\Phi)_2$ euclidean (quantum) field theory. 1974. (7-3.S42)

Williams, George C.

Sex and evolution. 1975. (7-6.W33)

VIII. ARTS & INDUSTRIES

Turner, Almon Richard.

The vision of landscape in Renaissance Italy. 1966. (8-1.T3)

IX. GEOGRAPHY & TRAVELS

Bodde, Derk.

Festivals in classical China; new year other annual observances during the Han dynasty, 206 B.C.-A.D. 220. 1975. (9-4.B5)

附属図書館の開館時間延長される

附属図書館の開館時間が本年10月から特別の期日を除いて1時間延長され、次のとおりとなった。(土曜日は従来どおり)

月曜日～金曜日	午前9時～午後8時
土曜日	午前9時～午後5時

これは、文部省により今年度から新しく時間外閲覧業務の実施のための予算が計上されたことによるものである。なお、午後5時以後の利用は従来どおり開架閲覧室だけで、同室での閲覧のための貸出は午後7時30分までとなっている。

近畿地区国公立大学図書館協議会 第3回館長・事務(部)長連絡会議

9月8日(金)神戸タワーサイドホテルで開催。昨年まで懇談会という名称だったが、今回から連絡会議に改めた。

最初、館長連絡会議と事務(部)長連絡会議とがそれぞれ別々にもたれた後、合同連絡会議が引き続いて行われた。

館長連絡会議では、①外国図書の円高差益に伴う価格引下げ、②転退職教官の貸出図書返却問題について意見が交され、事務(部)長連絡会議では、①外郭団体等の押売図書対策、②転退職教官の未返納図書、③パート職員による時間外開館の実施について意見が交換された。

合同連絡会議では、館長、事務(部)長双方の

連絡会議での共通事項について次のような協議が行われた。①外国図書の価格問題については、円高差益に伴う洋書価格の引き下げについて個々の大学ばかりでなく、大学全体として適正な価格で購入しようという姿勢も必要であるとの意見が述べられ、林館長が10月に開かれる国立大学図書館協議会理事会で、この問題を議題としてとり上げられるように努力するとの結論を得た。また②転退職教官の貸出図書返却問題については、各大学により貸出制度等の事情が異なっているため妙案が得られず、まず現状を把握するため、お互いに情報交換をしてはどうかということになった。

第52次国立七大学附属図書館協議会

10月11日～12日 大阪大学附属図書館(豊中)において開催された。第1日は第11回部課長会議、第2日は本会議が文部省学術国際局情報図書館課竹田課長補佐の出席を得て開かれた。

部課長会議では議題として外国図書・雑誌購入上の諸問題、相互協力業務担当職員の確保などについて協議が行われた。2日目の会議の協議題は次のとおりである。

- 1) 開館時間の延長計画と問題点について
- 2) 図書館部・課長の待遇改善をはかることについて
- 3) 現下、学術情報処理体制における大学図書館の役割
- 4) 相互協力ネットワークの形成について
- 5) 中央図書館における研究図書館的機能のあり方について一分館(部局)との機能分担を含め、特に資料配置とサービス体制を中心に—
- 6) 図書館必要面積の算定基準の改訂について

7) 相互協力担当要員の確保について

8) わが国学術情報流通施策と大学図書館特に国立大学附属図書館との関連について

協議の結果、要望事項として本年7月国立大学図書館協議会から「国立大学附属図書館の整備充実に関する要望書」の事項と重複するが、とくに重ねて次のことを要望することになった。

- 1) 相互協力業務担当職員の確保、わけでも協力の拠点とみなされる大学の図書館への早急な職員の配付を行うこと
- 2) 図書館必要面積の算定基準を改訂すること
- 3) 図書館部課長の待遇改善をはかること

なお、協議題(3)に特に関連して、学術情報処理体制における大学図書館の対応について、継続して部課長間で検討を行うことになり、このための第1回連絡会議が10月25日京都での国立大学図書館協議会理事会を機に開催された。

近畿地区国公立大学図書館協議会 昭和53年度主題別研究集会(法学系)

昭和53年11月24日(金)、京都大学附属図書館会議室にて開催。参加者33名(10大学)

法学系の研究集会は昨年にひきつづき2回目である。昨年は法学系図書業務に関する基本的事項

全般について討議が行われたが、各大学の実情を話し合うのに大部分の時間が費されたので、今回の研究発表及び討議は収集というテーマにしばって行われた。

まず、午前中の**講義**は、林館長が講師となり、「英米独仏法とその基礎資料」という題目で行われたが、丁度林館長は英・独の図書館事情の視察を終えて帰国されたばかりなので、そのホットな体験も交えながら図書館職員のあり方にもふれ、図書館職員が単純に図書館（学）的発想により独善に走らないよう研究者との密接な連携が必要であること、また研究者に役立つサービスを行うためには、（すでに述べた）法学関係各資料（判例集や法令集及び索引等二次資料）を理解し、使いこなせるようにならねばならないが、そのためには、法学というものが他のあらゆる分野に関連する巾広い領域を持っており、同時に諸外国の法学をも研究せねばならず、そのためには、更にその国の制度も理解する必要があることを念頭において不断の勉強をせねばならない、という趣旨のことも述べられた。

午後の**研究発表**は、京大法学部図書室から「京都大学法学部における資料収集の現状と分析」、また大阪市大からは「法学系雑誌の収集；問題点とその対応策」というテーマで発表があった。

前者は京都大学法学部職員の検討結果をまとめたものであるが、選書システムの現状が述べられた後、研究図書館における収集の**問題点**として①

研究者個人単位の選書及び部門（または学部）単位の選書の是非。②法学系における基礎資料（法令、判例、議事録等）の適切な収集の必要。③教官以外の階層からの収書への反映と利用のあり方、（中央館との機能の分担が問題）。④収書について研究者との密接な連携。⑤選書基準（または収書方針）の検討。⑥館員の資質向上への努力と資料収集への積極的な関与等が詳細に述べられた。

後者は、まず大阪市立大学の法学部資料室の現状について説明があり、ついで法律系雑誌（継続の法令、判例集を含む）の収集に関し、現状、問題点、対応策が述べられた。**問題点**として、①追録（洋）の差替え「誰がするのか」。②SupplementやPocket Partの処理（備品扱いの場合・廃棄が困難）。③欠号の問題（予防と補充）。④予算不足。⑤保管場所の狭隘。⑥業務体制や人手の問題等が述べられ、また**対応策**として、①欠号補充のために雑誌目録の交換、重複雑誌目録の交換、相互貸借の実現。②分担購入。③価格について情報の交換。④各大学間の連絡体制づくり。等が考えられるとしている。

以上の研究発表が終った後、選書のシステムについて述べられた種々の問題について、またSupplementやPocket Partの処理に関する問題について活発な意見の交換が行われた。なお、最後に参加者全員がこのような会合をなんらかの形で残したいという希望を述べ、盛会のうちに終了した。

医学図書館員研究集会開かれる

去る8月23日から25日まで、本学医学図書館が担当館となって、楽友会館と医学図書館を会場として、第13回医学図書館員研究集会が開催された。この研究集会は、日本医学図書館協会主催、文部省後援によって、主として、医学図書館員歴3年未満の職員を対象に毎年行われ、今回で13回目を迎えたものである。受講者は、35館、44名。

この研究集会を開催するにあたっては、例年、担当地区（この3年間は近畿地区）を中心に、3月頃に実行委員会が構成されて、約半年間にわたる準備がなされる。受講者にも相当の努力が要請

される。当集会参加のための「事前レポート」の提出、事後には、日本医学図書館協会刊行の「研究集会論文集」への原稿提出が義務づけられている。

本集会の内容としては、メインテーマに「レファレンスワーク——IM及びEMによる文献検索法——」が設定された。第一日目は講義が中心で、(1)日本医学図書館協会の組織活動、(2)メディカルライブラリアンシップについて、(3)医学図書館資料論、(4)医学情報とオンライン検索サービスの各講義があり、(5)他に、本学医学部教官の特別

講演が行われた。第二日目、三日目は、実行委員会によって作成されたテキスト(IM, EM), 問

題集等にもとづいて「演習」が行われ、3日間の研究集会を終了した。

昭和53年度全国図書館大会に参加して

今年度は、10月12日(木)から14日(土)まで氷雨の降る青森市で、約1,300名参加のもとに開催された。

第1日目は開会宣言につづき、主催者として森戸辰男大会名誉会長より「国会に衆参両院250余人による図書館議員連盟が設立されたり、国土庁が出した『第3次全国総合開発計画』の中にも図書館関係の政策が折り込まれており、我が国の図書館は今大きな転換期に差しかかっている。」との挨拶があり、浜田敏郎理事長は「国際経済の押し寄せる波にもかかわらず、今や世界的に生涯教育がさけられてきている。ここ東北でも文庫運動等の図書館活動が活発に行われている。また国家規模の図書館計画も企画され、いまや図書館問題も新しい組織と構築を点検し、実施されるべき時にいたっている。多くの利用者に新しい情報を適確に、かつ迅速に提供し得るようにするためには、地域や館種を越えた図書館ネットワークが必要である。それによって知的情報源の確立もできるのではないか。」と基調報告された。

記念講演は作家倉光俊夫氏が、「津軽に魅かれて」と題して東北地方の風土・人情・言葉について話をされた。

第2日目は「未来の知的情報をどうするか—21世紀に向っての図書館—」のテーマの分科会に出席した。大学図書館、専門図書館の人々を中心に350名以上の参加者で、会場を変更したほどの盛

況であった。田辺広氏外6名によるシンポジウム形式で討論が進められたが、図書館の未来像は、「エレクトロニック・ライブラリー」であり、「ポータブル・ライブラリー」であろう。文明が日一日急速に進歩するなかで図書館業務は、ますます機械化してゆくであろうが、導入にあたっては、組織をこえて、横のつながりを容易にし、「オンライン化することが大切である」という点に話は集中した。ますます増える二次情報の選別については図書館員の配慮が重要であり、利用者教育の必要性も強調された。図書館資源を拡充し、利用者がいつでも、どこでも、誰でも容易に資料を得られるようにし、活発に利用される理想の図書館にするためには、利用者と提供者、両者の協力と調和が大切で、その実現方法が図書館界の今後の大きな課題である。

最終日、閉会式は各分科会の報告が行われたが、公共図書館・地域図書館の活発な発言が内容とともに充実しており、また「障害者への図書館サービス部会」では、弱視者・視覚障害者へのサービスが大きくとりあげられていて報告者の熱意ある発言も印象に残るものがあった。

そして最後に聴いた郷土芸能高橋竹山師の津軽三味線のさえた音色とともに図書館大会は感銘深い三日間であった。

(法学部図書室 旭照子, 前田和子)

附属図書館商議会商議員名簿 (昭和53.11.1 現在)

議長	附属図書館長	林 良平	商議員	工学部長	西原 宏
商議員	文学部長	西田 龍雄	"	農学部長	坂本 慶一
"	教育学部長	蜂屋 慶	"	教養部長	上田 正昭
"	法学部長	片岡 昇	"	原子エネルギー研究所長	鈎 三郎
"	経済学部長	平井 俊彦	"	木材研究所長	樋口 隆昌
"	理学部長	林 忠四郎	"	経済研究所長	行沢 健三
"	医学部長	菅原 努	"	教授(文学部)	清水 純一
"	薬学部長	中垣 正幸	"	" (教育学部)	渡辺 洋二

商議員	教授（法学部）	阿部 照哉	商議員	教授（農学部）	三好 正喜
"	"（経済学部）	小野一一郎	"	"（教養部）	柳生 等和
"	"（理学部）	楠 幸男	"	"（結核胸部疾患研究所）	安平 公夫
"	"（医学部）	内野 治人	"	"（数理解析研究所）	一松 信
"	"（薬学部）	瀬崎 仁	"	"（原子炉実験所）	岩田 志郎
"	"（工学部）	松尾新一郎	"	"（人文科学研究所）	川勝 義雄

— 人 事 異 動 —

昭和53.7.17～11.30

○採 用

昭和53年9月16日付 事務官 山本 絹栄（附属図書館閲覧課閲覧貸付掛）

○転 任

昭和53年10月1日付 事務官 藤本 哲生（附属図書館閲覧課閲覧貸付掛）
（大阪外国語大学附属図書館整理係から）



○外国出張

・附属図書館長 林 良 平

期 間 昭和53.10.26～11.11

用 務 先 連合王国，ドイツ連邦共和国

目 的 ヨーロッパ諸国における図書館システム，建築ならびに機械化についての事情調査

・附属図書館整理課長 倉橋 英逸

期 間 昭和53.10.26～11.25

用 務 先 連合王国，ドイツ連邦共和国，フランス国，カナダ国，アメリカ合衆国

目 的 欧米における図書館システム，建築ならびに機械化についての事情調査

○附属図書館長事務代理について

附属図書館長林良平の外国出張に伴い，その間，館長事務代理として附属図書館商議会商議員・教授（理学部）楠幸男が発令された。

あ と が き

今回から本誌標題紙右肩に「ISSN 0582—4478」という番号が入っているが，ISSN とは International Standard Serial Number の頭字をとったものである。世界各国の雑誌に固有番号を与える事業の国際センターはパリにあるが，日本のナショナルセンターの国立国会図書館から今度この番号を与えられ，本誌も国際的に認知されたわけである。